

セル苗を利用した夏ニラの品種は「タフボーイ」が有望です

野菜・茶業研究所

ニラは栽培期間が長く、省力的な栽培技術が求められている。そこで、セル苗を利用した夏ニラの品種について検討したので紹介する。

【普及したい技術のポイント】

①セル苗を利用した夏ニラの品種としては、タフボーイが有望である。

【収量】

育苗時の播種粒数を3粒/穴とした時、タフボーイの3年間の平均収量はスーパーグリーンベルトの103%程度である(図1)。

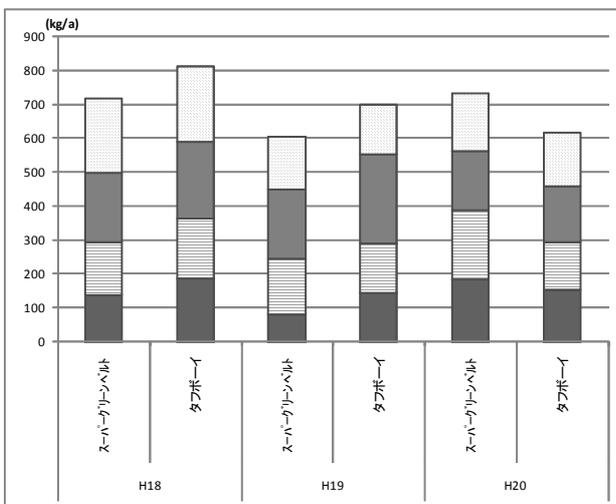


図1 品種と収量

注) 育苗:M社220穴トレイ
株間25cm, 条間27.5cm, 8条/畝収穫:
7月~11月 4回収穫

【分けつ】

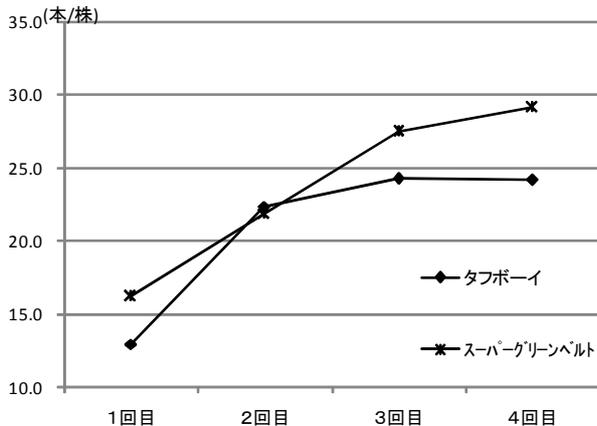


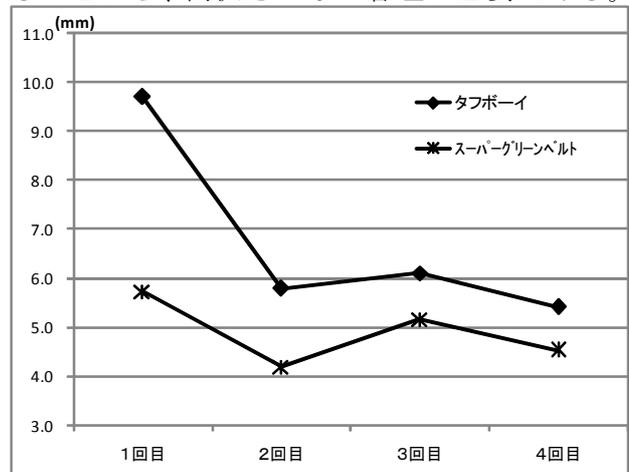
図2 茎数の推移(2008年)

タフボーイは1回目収穫時で79.3%、4回目収穫時で83%とスーパーグリーンベルトに

比べ茎数が少ない。(図2)。

【葉鞘長】

タフボーイはスーパーグリーンベルトに比べ葉鞘が長い。特に収穫1回目は10cm程度になることから、倒伏させない管理が必要である。



【葉色】

タフボーイの葉色は収穫期間を通じてスーパーグリーンベルトと同程度かやや濃い(図4)。

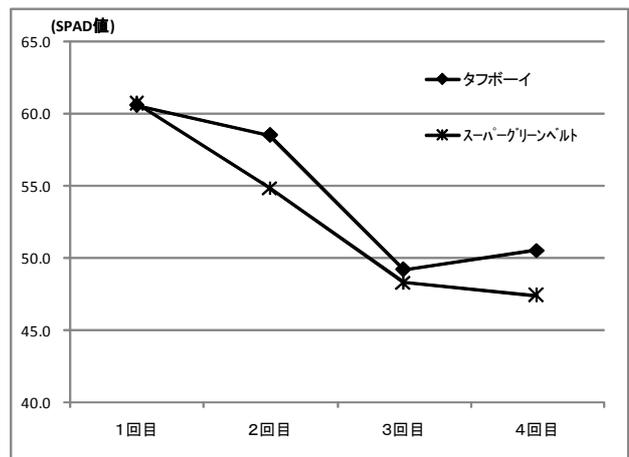


図4 葉色の推移

注) SPAD502により測定